

三 崎 の 寅 さ ん

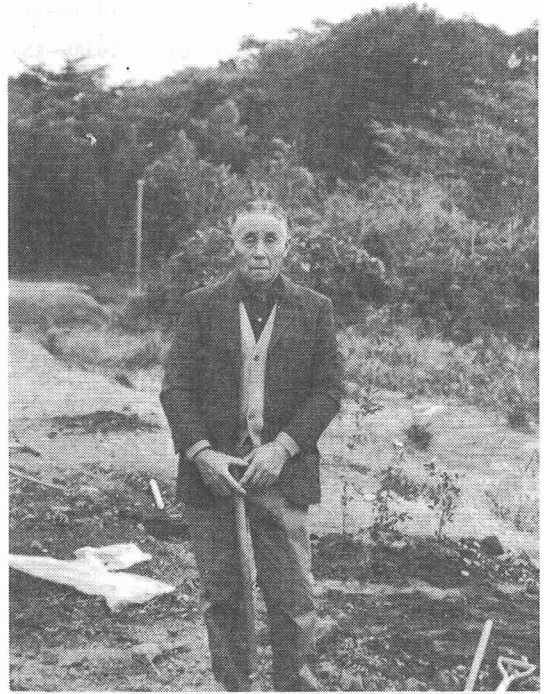
雨 宮 昭 南 (臨海)

関本貞治氏(みんな、貞さんと呼んできた)は、今年の4月1日付で、臨海実験所技官を停年で辞められた。昭和11年以来、40年余りの間、ひたすら実験所の為に尽していただき、本当にありがとうと、お礼を申しあげたい。

貞さんの仕事は、技官として、研究用の生物を採集することであった。ここ三崎周辺の海は、貞さんにとっては、自分の庭のようなものであり、頼まれた海産動物で、とってこれぬものはおよそなかった。採集の依頼があると、和船で沖にこいでいき、先端にカギのついた、長い竹ざおと、のぞきめがねを使って、生き物をひっかけてとってくるのが常であった。貞さん独特の採集法はいろいろあったが、なかでもおもしろかったのは、ゴンズイ(ナマズのなかま)の採り方であった。ゴンズイを使いたいと頼むと、「ん……む……。」と言ったきり、動こうとはしない。採ってくれないのではなからうかと心配していると、帰る頃になって、やおら、カジメ(海藻の一種)を、縄でたばねはじめたのである。そして、その日は、たばねたカジメを餌もつけずに、実験所の棧橋から、海底におろして帰ってしまう。翌朝、たばねたカジメを海からあげれば、ゴンズイの大きいのは、ちゃあんとカジメの束の中に入っているのであった。貞さんが、動物の習性を利用して捕らえたものは、その他にも、ウミホタルやコーレイボヤがあった。

貞さんは、初代採集技官の熊さん(青木熊吉氏—明治・大正にかけて勤務し、長者貝=オキナエビスの名付親として名高い)、二代目の重さん(出口重次郎氏—採集技官として尽した功績により、黄綬褒章を贈られた)のあとを継いで、よく、その伝統をまもり、二名の後進(鈴木英雄技官、関本実技官)を育てられた。関本実技官は、貞さんの三男であって、父君と同じ道を現在歩んでいる。

貞さんは、寡黙で、真面目一筋な人となりで、海に生きる人に似合わず、酒はたしなまず、コツコツ



「貞さんの松」
新宿舎の落成にあたり記念植樹をする
関本貞治氏

と働らくことを特に好まれた。仕事の対象が、海と生き物であるために、勤務が早朝から深夜に及ぶことも度々であったが、黙々とよく頑張つて下さった。

退官にあたり、有志の者で貞さんに記念品を贈つて、その労をねぎらおうとしたときに、実験所内外から、それに応ずる人が相つき、その数、120名の多きに及んだのも、貞さんの人徳をうかがわせるものであろう。

これからは、自分の船で、海にでて漁をしながら、第2の人生をおくられるとのこと、つつがなく過していただきたい。